スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

## 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

# 山梨県 山梨市


自 治 体 名 ： 山梨県山梨市
担 当 課 名 ： 生涯学習課
電 話 番 号 ： 0553-22-1111

# 1.自治体の基本情報

スポーツ庁

## 基本情報

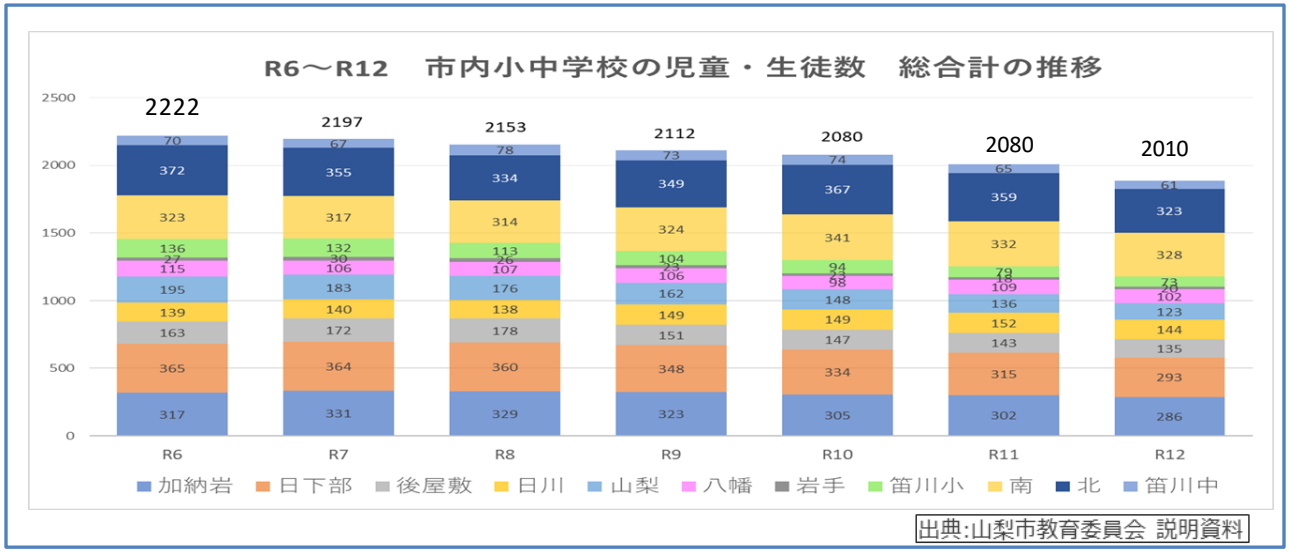
| | |
|---|---|
| 面積 | 32,745 ㎢ |
| 人口 | 33,200 人 |
| 公立中学校数 | 3 校 |
| 公立中学校生徒数 | 764 人 |
| 部活動数 | 50 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 山梨市中学校運動部活動連絡協議会の設置 |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 市の推進計画及びガイドラインなどは検討中 |

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市の位置する東山梨地区においては、生徒の全員が何らかの部活動に所属し活動するなど、かつてより部活動の盛んな地域である。

現在、市内には山梨南中学校、山梨北中学校、笛川中学校の中学校３校と小学校8校がある。しかしながら人口減少による児童生徒数の減少傾向が続いており、10年後には現在の生徒数の四分の三となる見通しである。

そのため、山間部の小規模の中学校においては限られた種目の部活動しか設置することができず、生徒の選択の幅が大きく狭められている現状がある。比較的規模の大きい２校についても生徒数の減少により、チーム競技である野球などでは他校との合同チームでの活動を余儀なくされている。特定の競技を続けたいと希望する生徒が市外に活動の場を求めたり、進路選択にも影響を及ぼしたりするなどの状況が出てきており、この機に手立てを講じていく必要が高まっている。



出典:山梨市教育委員会 説明資料

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）




### ●行政組織内での役割分担

**◉教育委員会**

（生涯学習課・学校教育課）

・生涯学習課が計画、運営体制の構築、指導者の選定等を行った。

・学校教育課にコーディネーターを配置し、学校との協議及び、生涯学習課で選定した指導者と学校長及び部活動指導顧問との連絡調整を行った。

## 年間の事業スケジュール

| | |
|---|---|
| 令和６年５月 | 令和７年度活動開始 |
| 令和６年７月 | 第１回協議会(代表者会) |
| 令和６年８月 | 第２回協議会(代表者会) |
| 令和６年９月 | 部活動顧問専門部会での周知 |
| 令和６年10月 | 部活動顧問意向調査実施 |
| 令和６年11月 | 先進校県外視察 |
| 令和６年12月 | 令和７年度入学生徒説明会 |
| 令和７年　1月 | 令和７年度入学生徒説明会 |
| 令和７年　2月 | 第３回協議会(代表者会) |

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

### ①全体に関すること

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中学校数 | 3 校 | 実施した地域クラブ総数 | 5 クラブ |
| ケース別クラブ数 | A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） | | 5 クラブ（5 部活） |
| | B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等） | | 0 クラブ |
| 全体の指導者数 | 9 人 | 全体の運営スタッフ数 | 12 人 |

### ②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体 | 種目 | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者 | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数 | 会費 | 大会参加方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| サッカー | 東山ＦＣ | サッカー | 月４回 | 土曜日午前 | 1年 4<br>2年 15<br>3年 6 | ４月～３月 | 山梨南中 | ３人 | ３人 | 1000円/月 | 中体連：部活動<br>その他：地域クラブ |
| 男子テニス | 地域指導者 | 軟式テニス | 月４回 | 土曜日午前 | 1年 8<br>2年 3<br>3年 5 | ４月～３月 | 山梨南中 | １人 | １人 | 無し | 中体連：部活動<br>その他：地域クラブ |
| 女子テニス | 加納岩ジュニア | 軟式テニス | 月４回 | 土曜日午前 | 1年 4<br>2年 6<br>3年 14 | ４月～３月 | 軽スポーツ広場 | １人 | ２人 | 無し | 中体連：部活動<br>その他：地域クラブ |
| 男子卓球 | 卓友会 | 卓球 | 月４回 | 土曜日午前 | 1年 7<br>2年 6<br>3年 7 | ４月～３月 | 山梨南中 | ２人 | ３人 | 無し | 中体連：部活動<br>その他：地域クラブ |
| 剣道 | 剣友会 | 剣道 | 月４回 | 土曜日午前 | 1年 6<br>2年 7<br>3年 8 | ４月～３月 | 山梨南中 | ２人 | ３人 | 無し | 中体連：部活動<br>その他：地域クラブ |

### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

●【サッカー】　開始時は山梨南中学校のサッカー部の生徒だけであったが、練習体験等も受け入れる中で、広く参加者を募ってる。
●【卓球】　通常は土曜日の午前中の練習となっているが、一般が参加している夜間の練習機会を紹介し、希望する生徒が参加している。

# 2.実証内容と成果

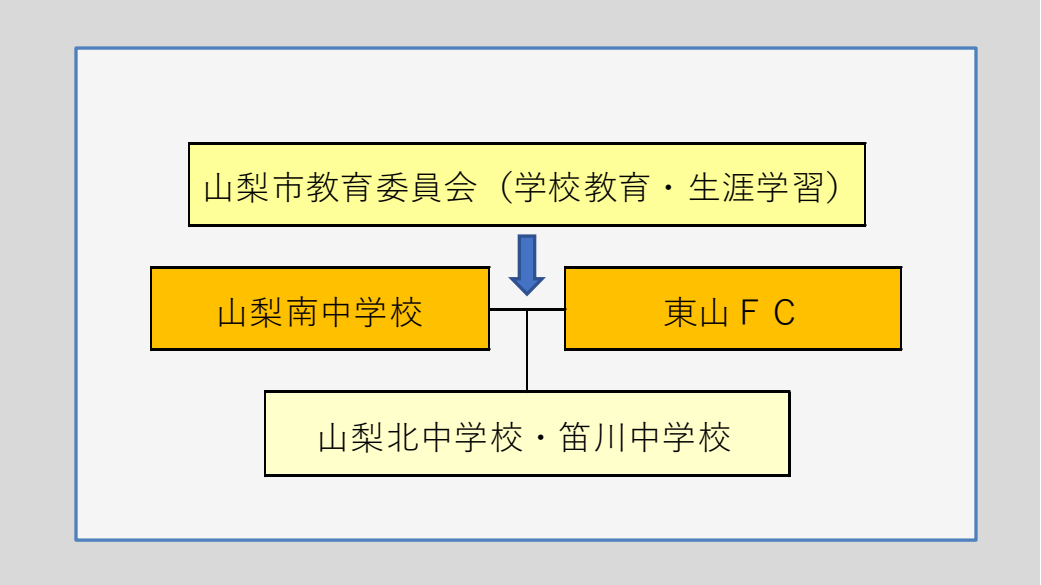
スポーツ庁

## 主な取組例

### ●東山ＦＣクラブ　活動概要

| | |
|---|---|
| 地域クラブ活動で実施した種目 | サッカー |
| 運営団体名 | 東山ＦＣスポーツクラブ |
| 期間と日数 | サッカー：４月１３日 ～３月８日<br>月4回程度 |
| 指導者の主な属性 | 教職員の兼職兼業　地域指導者　等 |
| 活動場所 | 山梨南中学校グランド　等 |
| 主な移動手段 | 自転車又は保護者の送迎 |
| １人あたりの参加会費等（年額） | サッカー：12,000円 |
| １人あたりの保険料 | スポーツ安全保険（市負担）<br>生徒１人あたり：800円/年<br>指導者１人あたり：1,850円/年 |

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）




### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：全体運営、練習計画立案、学校や市との連絡調整等を行う

●主任指導者　１ 名

役割：練習メニュー作成、技術指導等を中心になって行う

●運営補助者　１ 名

役割：安全確保、会場調整、保護者連携、連絡調整などを行う

# 2.実証内容と成果



## 取組内容

### ●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項（ア）

既存の部活動の種目にとらわれずに、多様な種目や内容をターゲットにすることで、様々な専門性を持った地域の方が指導者としてかかわりやすい仕組みの構築を目指した。

#### 取組の成果（ア）

体育的活動の受け皿作りを重点的に進めつつも、広いジャンルの活動を休日の生徒の受け皿とし、地域クラブ活動のジャンルに入れていくことにより、地域の力を広く結集し、多様性に対応できる組織のイメージができつつある。

先進地視察などにより情報収集を行う中で、本市の状況に近い実践例を参考にすることができた。

これらの体制の整備に当たっては３中学校の校長と事務局という少人数の中で、継続して協議を進めイメージを共有していったことが大変効果的であった。

#### コーディネーターの実績（ア）

本市の取組の推進おいて、特に起点となった活動がサッカー(東山FC)である。部活動からの移行の際に、説明資料の作成、保護者説明会の実施、消耗品などに充てる会費の徴収など、担当者と共有する中で進めて行った。この流れを一つのモデルケースとして把握し、他の活動が始動する際の参考になるよう働きかけを行った。平日の部活動後に夜7時迄クラブ活動として活動するという事例も、今後の取組の一つの方向性として周知を図っている。





#### 今後の課題と対応方針

現在は実証事業を受けての地域クラブ活動への展開を目指した取組であるが、その環境下においても多くの種目において具体的な体制づくりはこれからである。関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備に当たっては、事務局である教育委員会の細部にわたる見通しが求められている。複数の活動の立上げを目指しているが、まずは一つの活動についてモデルとなる整備を実施していきたい。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
**イ：指導者の質の保障・量の確保**
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

#### 取組事項（イ）

市内中学校の卒業生やすでに学校や部活動顧問と関係性のある指導者に協力を求めた。コミュニティ・スクールの仕組みを活用するなどし、地域ぐるみで指導者の確保を進めることとした。

#### 取組の成果（イ）

部活動顧問教師に行ったアンケート調査から、地域クラブ活動において各種目の指導や運営に携わってもらえそうな地域指導者の情報が寄せられた。これらの情報をもとに地域クラブ活動に関われる人材のリストを作成し、次年度の地域クラブ活動への移行に向けての準備にあてることができた。

また、コミュニティー・スクールの仕組みも活用し、指導者の確保について情報提供を依頼した。それによって地域に眠っている指導者の掘り起こしや、卒業生にサポーターとして協力を求める取組に発展するなど、一定の成果が見られた。

#### コーディネーターの実績（イ）

「場所」「時間」「指導者」をキーワードとし、体育的活動に限らずにジャンルを広げて実施の可能性のある活動をピックアップした。「山梨市地域クラブ活動実施計画(案)」として表にまとめて掲示し、担当課内で広く共有した。

その結果、担当者以外からも人材や活動の情報が入るようになり、取組の進展が見られた。

進捗状況の見える化によって推進が図られた事例といえる。

山梨市地域クラブ活動　実施計画(案)　2025.2.28

| | 種目・活動 | 活動場所 | 活動日 | 活動時間 | 指導者 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 男子卓球 | 山梨南中 | 土、日 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | 卓友会（女子卓球と統合予定） | 既存の部活動 | 【現状】南中 男子で活動<br>【今後】卓球クラブとして男女・南中・北中 統合 |
| 2 | 女子ソフトテニス | 緑スポーツ広場・山梨南中 | 土、日 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | 加納岩ジュニア | 既存の部活動 | 【現状】南中 男子<br>南中 女子　で活動<br>【今後】ソフトテニスクラブとして男女・市内中学統合 |
| 3 | 男子ソフトテニス | 山梨南中 | 土、日 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | 地域指導者 | 既存の部活動 | |
| 4 | 剣道 | 市民体育館武技場・山北中 | 土 | 9:00～11:00 | 錬成剣友会 | 既存の部活動 | 【現状】南中・北中が参加<br>【今後】現状の主活継続 |
| 5 | 空手 | 牧丘B&G、山梨南中格技場 | 土 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | 清空館 | 地域連携 | 【今後】南中・北中　参加予定 |
| 6 | 根津記念館ボランティア | 根津記念館　他 | 土 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | 根津記念館　職員 | ボランティア | 【今後】市内中学　対象　募集 |
| 7 | 万力公園ボランティア | 万力公園 | 土 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | 万力公園　動物飼育担当 | ボランティア | 【今後】市内中学　対象　募集 |
| 8 | eスポーツ | 道の駅やまなし | 土、日 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | 山梨県eスポーツ連盟(福垣) | 地域連携 | 【今後】市内中学　対象　募集 |
| 9 | 野球 | 山梨北中グランド | 土、日 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | | 既存の部活動 | 【今後】甲州市との統合検討（北中・南中・勝沼中） |
| 10 | ソフトボール | 山梨南中グランド | 土、日 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | | 既存の部活動 | 【今後】南中・北中統合 |
| 11 | ハンドボール | 山梨北中グランド・体育館 | 土、日 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | | 既存の部活動 | 【今後】甲州市との統合検討男女・市内中学統合 |
| 13 | バレー | 山梨南中体育館 | 土、日 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | | 既存の部活動 | 【今後】バレークラブとして男女・南中・北中統合 |
| 15 | バスケ | 山梨北中体育館 | 土、日 | 9:00～12:00、13：00～16:00 | | 既存の部活動 | 【今後】バスケットクラブとして |

出典:山梨市教育委員会　取組資料

#### 今後の課題と対応方針

現在は多くの種目において具体的な体制づくりや指導者の確保はこれからであるが、実証事業を有効に活用する中で道筋をつけていきたいと考える。特に取組の初期の段階においては教員の兼職兼業も含め教員ＯＢなど部活動に理解の深い人材も指導者集団に参加していただくことが円滑な運営には効果的と考える。その人材を核として指導者の質の保証と量の確保を進めていきたい。地域の指導者を増やすことで目的に迫りたい。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
**ウ：関係団体・分野との連携強化**
**エ：面的・広域的な取組**
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　　ウ：関係団体・分野との連携強化　／　エ：面的・広域的な取組**

### 取組事項（ウ）

体育系の活動から試行的に取組を始めたが、現在ある部活動の種目にとらわれず、文化的活動の団体やボランティア受け入れ組織なども受け皿として連携を探った。

### 取組の成果（ウ）

生涯学習課で行う体育団体や関係者との会議の中で、部活動の地域展開について情報提供を行い、周知を図るとともに、協力を呼びかけ連携の強化を図ってきた。

また、まだ準備段階ではあるが、市内に立地する根津記念館や動物園、図書館などでのボランティアを主体とした地域クラブ活動立上げの構想や、書道などの団体との連携ができつつある。

これらの活動は特に技能を持ち合わせていなくても、また体力的に自信が無くても気軽に参加できることがメリットの活動であり、スポーツとは異なる魅力を提供できることが期待される。

### 取組事項（エ）

モデル校として試行的実施を依頼した山梨南中学校において、令和５年から地域連携として取り組みを開始した。校内での活動の定着と、成果の把握をもとに、市内３校への拡大を目指した。

### 取組の成果（エ）

令和６年度はサッカー等で他校にも波及を図った。

サッカーは平日の部活動の終了時間からクラブ活動として活動を進めてきた。当初は会場である山梨南中の生徒のみで活動が始まったが、休日の活動で市の中心に位置している市民グランドも併用することにより、近隣の中学生も参加しやす状況が生まれ、活動の広がりにつながっている。

また、ハンドボールやサッカー等の競技において、市外の取組の情報や市をまたいで合同での活動を模索する動きが出始めた。市内の運営組織の立上げを最優先にしつつも、将来的な連携についての糸口ができつつある。

### 今後の課題と対応方針

令和８年度から休日の部活動を行わない代わりに地域の受け皿を設けていく方向で、検討を進めている。現在部活動として活動している競技種目の休日の実施のためには関係団体・分野との連携が不可欠である。今後協力を得やすい団体、経費のかからない活動組織との連携を模索する一方、現在中学校で設置されており、学校や保護者にも根強いニーズがある部活動の種目を地域クラブ活動として位置づけていく工夫が必要と考える。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
**オ：内容の充実**
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　オ：内容の充実**

### 取組事項（オ）

地域指導者に学校で行っている部活動の意義を理解してもらうなど連携を強化した上で計画的活動を行い成果を上げた。

### 取組の成果（オ）

競技経験のない部活動顧問と卓越した技術を有する指導者が信頼関係の下で連携し、生徒の活動を支えたことにより、生徒の活動意欲や自信が高まり、技術面だけでなく精神面においても大きな変容が見られた。

そのため、学校の管理職、部活動顧問、地域指導者も取組の意義や成果について改めて理解を深めることとなり、他の競技種目などへの波及に向けてもよい事例となった。

### 今後の課題と対応方針

地域クラブ活動が持続可能な仕組みとして定着していくためには、指導できる技術力と合わせて様々な生徒に寄り添える指導力、部活動の顧問教師との信頼関係の構築が欠かせない。指導者の確保が急務であるが、組織の立上げの段階では、教職員のＯＢの協力や兼職兼業での活動への参加などを期待したい。あわせて、研修の実施や、実際の部活動指導の現状見学、顧問との連携機会の確保等により、さらに内容の充実を図りたい。

### 活動の詳細（男子卓球クラブ）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 参加人数 | 20人 | 指導者数 | 3 人 |
| 属性 | 地域スポーツクラブである卓友会による指導 | | |
| 具体的な内容 | 活動時間：月に4回　土曜日午前の3時間　等<br>活動場所：山梨南中学校卓球練習場　他<br>〇初心者として練習を始めた生徒も多いが、基礎的な練習方法や技術を土曜日の地域クラブ活動で学び、それを平日は部活動顧問が活動の中に反映させ充実を図るなど、好循環を生み出したことにより内容の充実を図った。 | | |
| 子供の声 | ● 指導者の説明がわかりやすく上達していることが実感できた。<br>● 練習が楽しくなり、もっと練習したいと思うようになった。<br>● コーチのアドバイスが的確で試合でも勝てるようになった。 | | |
| 関係者の声 | ● 短期間で精神面と技術面での成果が表れ、県代表になったのは驚いた。<br>● 生徒たちにとって大きな自信になり地域クラブ活動の持つ可能性を感じた。<br>● 指導や対外試合のたびに生徒の向上の様子がわかり、指導者としても大いに刺激になっている。 | | |
| 運営経費 | 現在は実証事業の経費を謝金にあてている。（１回の報酬：1団体10,000円。月の上限40,000円）土曜日の活動のほかに一般が実施している平日夜の活動にも生徒が参加するなど、活動の広がりが見えていることから、参加費などについて検討中である。 | | |

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
**カ：参加費用負担の支援等**
**キ：学校施設の活用等**
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　　カ：参加費用負担の支援等　／　キ：学校施設の活用等**

### 取組事項（カ）

先進地の運営方法や市内でも先行実施している地域クラブ（東山ＦＣサッカークラブ）の取組をもとにして、参加費用負担の支援等について検討する。

### 取組の成果（カ）

地域クラブ活動を持続させるための参加費のあり方について情報を得ることができた。

東山ＦＣサッカークラブの取組では実証事業の中で指導者の謝金を賄いつつ、クラブの実情に応じて必要最低限の参加費を独自に徴収する形をとっている。

保護者の理解も得る中で進めた流れは今後の受益者負担を想定した場合の実績の蓄積となった。

また。新たな視点として市内にあるボランティア活動の受け入れ可能団体と連携し、参加費用が無くても興味のある活動に参加できるという受け皿について可能性を探ることができた。

### 取組事項（キ）

「①活動場所　②活動時間　　③指導者」をセットとして検討し生徒の土日の受け皿として実施可能な条件がそろったものから順次実施していく方向性を示し、会場の確保を進めた。

### 取組の成果（キ）

部活動顧問の教師から活動に適した会場や運営について競技ごとの意見を吸い上げ、活動計画づくりに反映させた。それをもとに学校長との打ち合わせを重ねる中で、学校の体育館やグランドについて効果的に利用する検討がなされた。

市民体育館やスポーツ広場は一般の利用団体に広く活用されている実績があるため、学校施設の利用は持続可能な運営に資するものと考える。



### 今後の課題と対応方針

活動を自走させるためには財源の確保等運営資金についての検討が不十分である。困窮家庭への支援等も含め、先進地域の組織運営の状況などを参考にしながら持続可能な仕組みの構築を目指したい。また、市の施設であるスポーツ広場や市民体育館は日常の市民の活動やスポーツ少年団の活動場所として、また。大会の開催などで利用には限界があることから、今後も学校施設の利用を重点に置いて検討を進めたい。

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 総括・成果の評価・今後に向けて

### ●総括

令和５年度からの２年間の実証事業を進める中で、学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により、生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方について検討を深めることができた。

「子どもたちのために」という視点のもと、市として学校の部活動顧問や生徒・保護者に、「部活動は平日のみの活動」「休日の部活動はなくなること」と明確にビジョンを示し、令和７年度の地域展開試行実施を経て令和８年度からの本格実施へと続く道筋について、理解を図ることができた。

モデルケースとして実施した地域クラブ活動では生徒の技術力や意欲の向上が見られ、部活動の地域展開に向けて、取組が持つ可能性も感じられたことが、生徒や指導者、学校関係者から声として寄せられ一つの成果になった。

しかしながら地域クラブ化が進む中で増加する事務負担への対応や運営費用の確保、指導者の質と量の確保など課題は多く、今後検討し整備していく必要がある。

### ●成果の評価

「教員の魅力ある働き方」や「生涯学習への第一歩」としての位置づけについて検討し、方向性を定める契機となった。

「関係団体・分野との連携強化」「学校の施設の活用」については徐々に理解も得られるようになり前進が見られた。特に、発想を変え、スポーツ関係団体に限らず受け皿となる団体を広く想定したことにより、協力を求められる団体が増えたことは、成果であった。

「関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備」と「指導者の質の保証や量の確保」「参加費用負担の支援」については、引き続き検討を進めていく必要がある。より多くの地域クラブ活動の立上げを目指すところではあるが、まず先行実施している活動の中で、モデルとなる整備の流れを作り、そこを起点として拡大を図る必要がある。

### ●今後に向けて

学校教育の一環から生涯学習の一環へと展開していくためには、「地域ぐるみで取り組むもの」という意識の高揚がさらに必要である。指導者の確保や財源の確保など持続可能な体制づくりにはさらなる工夫が必要となる。先進地の成功事例なども参考にしつつ、本市の状況に合った、本市ならではの特色のある活動として根付かせていきたい。

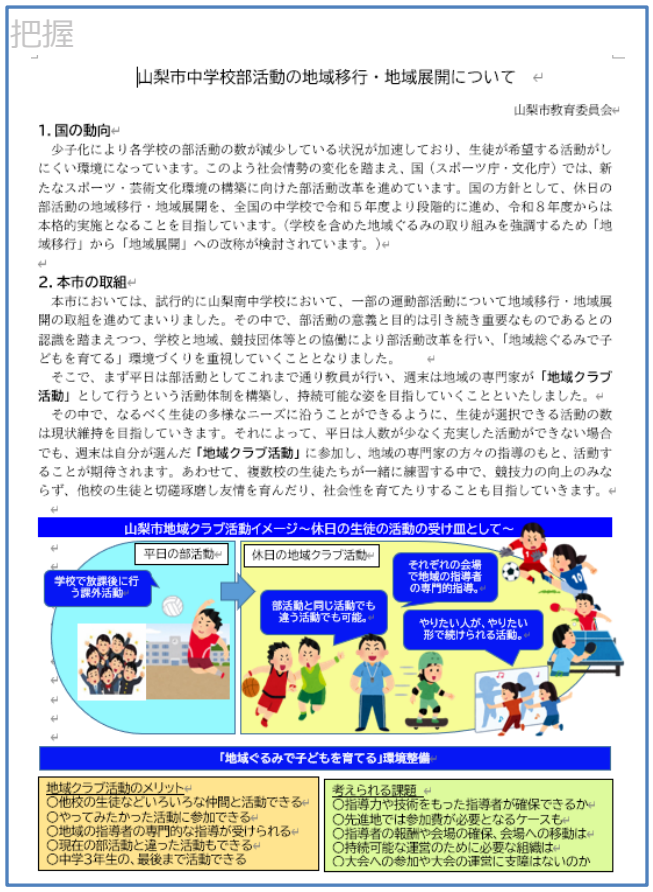
また、競技によっては他市との連携の動きも出始めたことから「面的・広域的な取組」の一環として　検討を進めて行きたい。

# 2.実証内容と成果③

スポーツ庁

## 広報資料

モデル校での試行から他の２校や他の種目へと波及を図るために、「地域移行」から「地域展開」へと表現が変わったタイミングで市の方針を明示した資料を作成し周知を図った。１０月には教職員の兼職兼業の意向を把握する意味も含め部活動の各種目顧問から地域クラブ活動として協議を行っていく際の情報をいただいた。また、３中学校で12月以降に行われた新入学生徒とその保護者対象の説明会も実施し、今後の見通しについて周知を図った。



山梨市中学校部活動の地域移行・地域展開について

山梨市教育委員会

**1. 国の動向**

少子化により各学校の部活動の数が減少している状況が加速しており、生徒が希望する活動がしにくい環境になっています。このよう社会情勢の変化を踏まえ、国（スポーツ庁・文化庁）では、新たなスポーツ・芸術文化環境の構築に向けた部活動改革を進めています。国の方針として、休日の部活動の地域移行・地域展開を、全国の中学校で令和５年度より段階的に進め、令和８年度からは本格的実施となることを目指しています。（学校を含めた地域ぐるみの取り組みを強調するため「地域移行」から「地域展開」への改称が検討されています。）

**2. 本市の取組**

本市においては、試行的に山梨南中学校において、一部の運動部活動について地域移行・地域展開の取組を進めてまいりました。その中で、部活動の意義と目的は引き続き重要なものであるとの認識を踏まえつつ、学校と地域、競技団体等との協働により部活動改革を行い、「地域総ぐるみで子どもを育てる」環境づくりを重視していくこととなりました。

そこで、まず平日は部活動としてこれまで通り教員が行い、週末は地域の専門家が**「地域クラブ活動」**として行うという活動体制を構築し、持続可能な姿を目指していくことといたしました。

その中で、なるべく生徒の多様なニーズに沿うことができるように、生徒が選択できる活動の数は現状維持を目指していきます。それによって、平日は人数が少なく充実した活動ができない場合でも、週末は自分が選んだ**「地域クラブ活動」**に参加し、地域の専門家の方々の指導のもと、活動することが期待されます。あわせて、複数校の生徒たちが一緒に練習する中で、競技力の向上のみならず、他校の生徒と切磋琢磨し友情を育んだり、社会性を育てたりすることも目指していきます。

山梨市地域クラブ活動イメージ～休日の生徒の活動の受け皿として～



「地域ぐるみで子どもを育てる」環境整備

地域クラブ活動のメリット
○他校の生徒などいろいろな仲間と活動できる
○やってみたかった活動に参加できる
○地域の指導者の専門的な指導が受けられる
○現在の部活動と違った活動もできる
○中学3年生の、最後まで活動できる

考えられる課題
○指導力や技術をもった指導者が確保できるか
○先進地では参加費が必要となるケースも
○指導者の報酬や会場の確保、会場への移動は
○持続可能な運営のために必要な組織は
○大会への参加や大会の運営に支障はないのか

**【保護者説明会用チラシ】**

作成：山梨市教育委員会　説明資料



**部活動の地域展開**

**学校部活動から休日の地域クラブ活動へ**

国の動向
○少子化により部活動数の減少が加速
○生徒が希望する活動がしにくい環境に
○国（スポーツ庁・文化庁）では、新たなスポーツ・芸術文化環境の構築に向けた部活動改革を推進
○休日の部活動の地域展開を、全国の中学校で令和5年度より段階的に進め、令和8年度からは本格的実施へ

【部活動の地域展開とは】
学校の部活動を地域の団体やクラブに移行させる取り組み
【ねらい】
学校教育と地域社会の連携を深め、子供たちの成長を支える
【目的】
学校負担の軽減　生涯スポーツの推進

地域クラブ活動のメリット
○他校の生徒などいろいろな仲間と活動できる
○やってみたかった活動に参加できる
○地域の指導者の専門的な指導が受けられる
○現在の部活動と違った活動もできる
○中学3年生の、最後まで活動できる

考えられる課題
○指導力や技術をもった指導者が確保できるか
○先進地では参加費が必要となるケースも
○指導者の報酬や会場の確保、会場への移動は
○持続可能な運営のために必要な組織は
○大会への参加や大会の運営に支障はないのか

山梨市の目指す姿
部活動の意義と目的を大切にしつつ、学校と地域、競技団体等との協働により部活動改革を行い、「地域総ぐるみで子どもを育てる」環境づくりを重視していく。

山梨市の取組
○令和５年度より「部活動の地域移行に向けた実証事業」に参加
・山梨南中学校をモデルケースとして試行的に開始。
○令和６年度にスポーツ庁・文化庁で「地域移行」から「地域展開」に名称変更。
・現在５つの部活動について活動を実施しているが、教育委員会を含め現場でも戸惑いが生じた。
・部活動に熱心な教員や厳しい指導を期待する保護者（生徒）も少なからずおり、共通理解を図ることが難しい。

○市としてのビジョンの明示
①令和７年度を試行の年として位置づけ推進する。
②令和８年度から学校部活動は平日のみとする。
③土日の部活動をしない代わりにスポーツ、文化、ボランティア等に関する団体や活動をその受け皿として整え、持続可能な体制を整える。

○地域クラブ活動への地域展開に向けた準備
①学校や保護者への説明会の実施。
②生徒の多様なニーズに沿うことができるように、２０前後の地域クラブ活動の立上げを目指し「活動場所・指導者・時間」の３つを基本項目として計画の立案。



**【アンケート結果】**

出典:山梨市教育委員会　説明資料

# 2.実証内容と成果④

スポーツ庁

## 参考資料（活動写真）



【ソフトテニス　多球練習による指導】



【ソフトテニス　練習ポイントの説明】



【卓球　ゲーム形式の練習に対する指導】



【卓球　指導者によるマンツーマン指導】

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年

**学校徴・部活動顧問と協議**

▶

**受け皿団体や指導者、拠点校の選定**

▶

令和６年

**学校・地域指導者との連絡調整**

▶

**生徒、保護者への説明**

▶

**受け皿団体や指導者、拠点校の選定**

▶

令和７年

**地域クラブ活動の試行と拡大**

**●ステークホルダー**
学校長・部活動顧問
**●経過**
事業の実施にあたって、市内中学校長と協議を重ね、本市としての最適な形についての検討を行った。
**●実施にあたって生じた課題**
市内３中学校のうちの１校が山間部に位置するため、足並みをそろえた実施に困難が伴う。
**●実施内容、工夫した点 等**
現存するリソースの集中を可能にするため、地域移行に前向きであった１校をモデル校として、地域連携から導入することとした。

**●ステークホルダー**
部活動顧問
**●経過**
部活動顧問に事業の説明を行い理解を求めた。
**●実施にあたって生じた課題**
部活動は全員参加のもと休日も行うものという意識が残り、生徒指導上の要素や責任の所在などの点から不安要素が多数出された。
**●実施内容、工夫した点 等**
モデル校での実践活動を具体例として説明する中で、地域移行のメリットについて少しずつ理解が深められた。

**●ステークホルダー**
生徒・部活動顧問・地域指導者
**●経過**
モデル校の実践をもとに市内の他校や保護者等に説明を行い、理解を求めた。
**●実施にあたって生じた課題**
「地域移行」から「地域展開」に向かうなど一部方向性に不安が残っていた。
**●実施内容、工夫した点 等**
令和７年度を移行期間、８年度を本格実施として市の方針を明確にし、スケジュールを示したことにより、目標に向けての意識が高まった。

**●ステークホルダー**
部活動顧問・地域指導者
**●経過**
教職員に再度の意向調査を行い、部活動がなくなった時の受け皿の確保に着手した。
**●実施にあたって生じた課題**
一斉に複数の活動の立上げは困難であり、運動部だけを対象とした発想には限界がある。
**●実施内容、工夫した点 等**
体育系の活動以外でも地域の文化団体やボランティア受け入れ先、高等学校など、受け皿の可能性を広くとらえ検討を始めた。

# 3.今後の方向性

スポーツ庁

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

市町村名（ 山梨市 ）

### 地域クラブ活動への移行に向けたロードマップ

| 項目 | 担当課 | 取組内容・方向性等 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度（以降） |
| ①コーディネーターの配置 | 学校教育担当課<br>社会教育担当課 | ○コーディネーターの配置<br>○コーディネーターの継続的な配置体制の構築 | | ○地域移行専任コーディネーターの配置 | |
| ②協議会等の設置・運営 | 学校教育担当課<br>社会教育担当課 | ○学校関係者の委員選定<br>○社会教育関係者の委員選定 | ○検討会の開催 | ○協議会の設置・開催<br>○地域クラブ活動への移行に関わる課題等の検討・協議・決定 | |
| ③運営体制の構築 | 学校教育担当課<br>社会教育担当課 | ○アンケート調査実施<br>○子どものニーズ把握<br>○運営団体の検討<br>○先進地への視察 | ○各学校との打ち合わせ<br>○地域クラブ活動の試行的実施の検討（種目等）<br>○地域連携活動の実施<br>○運営団体、方針の検討・決定 | ○実施主体・内容の検討・決定<br>○試行的な活動の実施 | ○地域クラブ活動体験生徒及び保護者へのヒヤリング等<br>○本格的な実施に向けた取組 |
| ④指導者の確保 | 学校教育担当課<br>社会教育担当課 | ○子どものニーズ把握<br>○教職員の兼職兼業希望の把握 | ○確保方法について検討<br>○各種団体との連携 | ○指導者の募集（スポカルやまなしの活用）　○指導者の決定・派遣<br>○指導者研修会の検討・開催　○指導状況の把握 | |
| ⑤活動場所の確保及び管理運営 | 学校教育担当課<br>社会教育担当課 | ○各学校との打ち合わせ<br>○使用可能施設の把握・調整<br>○使用施設の使用マニュアル等の作成・周知 | ○各学校との調整 | ○課題の検討・改善等<br>・活動場所までの移動方法<br>・使用施設の修繕や改修 | |
| ⑥予算・財源の確保（保護者負担等） | 学校教育担当課<br>社会教育担当課 | ○協議会・コーディネーターに関わる予算確保<br>○指導者に関わる予算確保 | ○国の実証事業への参画による予算確保（仮）<br>・協議会運営費　・コーディネーター人件費　・指導者謝金　等<br>①国費＋市町村単費（受益者負担含む）で事業実施が条件<br>②実証事業は地域クラブ活動の取組実施が必須条件<br>※①②より収支構造を分析。市町村単費確保と受益者負担詳細を検討 | | |
| ⑦関係者への周知 | 学校教育担当課<br>社会教育担当課 | ○地域移行の基本情報の周知<br>・学校（保護者、生徒、教員）<br>・スポーツ団体、文化団体 | ○市の方針・ゴールイメージ等に関わる周知<br>○運営団体・実施主体の具体的な取組に関わる周知（運営方針、実施内容、地域クラブの規定 等）<br>○実施される地域クラブ活動に関わる周知（参加者募集、指導者募集、協力のお願い　等）<br>○市のHPから随時情報発信（協議会議事録、地域移行チラシ、参加可能活動クラブ紹介、活動の様子紹介　等） | | |

**可能なものから地域クラブ活動の完全実施を目指す**